

【別紙様式 8】

課題番号	個 09-003
------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 27 年 3 月 9 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 中 村 進



所属・資格 \_\_\_\_\_ 法 学 部

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	米国と欧州における電子商取引紛争の国際裁判管轄問題の比較検討																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中村 進</td> <td>日本法学/インターネットの紛争に関するアメリカ合衆国の一国際私法理論</td> <td>80巻4号</td> <td>平成27年2月</td> <td>日本大学法学部</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	中村 進	日本法学/インターネットの紛争に関するアメリカ合衆国の一国際私法理論	80巻4号	平成27年2月	日本大学法学部																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
中村 進	日本法学/インターネットの紛争に関するアメリカ合衆国の一国際私法理論	80巻4号	平成27年2月	日本大学法学部																																								

※ホームページ等での公開の (○可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 09-004
------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 27 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 工藤 聡一



所属・資格 法学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 EU排出権指令の域外航空運送事業者への適用上の問題	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	工藤聡一	日本法学／航空由来カーボンの排出削減と国際社会
		80巻3号
		27年1月
		日本大学法学研究所

※ホームページ等での公開の  否  いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	総08-006 総09-002
------	--------------------

注：課題番号を記入してください。

## 平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成23年11月17日

日本大学 総長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 高橋 淑 郎 \_\_\_\_\_ 印  
 所属・資格 \_\_\_\_\_ 商学部・教授 \_\_\_\_\_

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <u>総合研究</u>	注：該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	医療バランスト・スコアカードの導入意図と利用方法と成果評価に関する国際比較 (International Comparative Study for Intent of Introduction, Way of Use and Performance Evaluation of Healthcare Balanced Scorecard)		
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 高橋淑郎 ・研究分担者 (役割分担) 大道 久 (日本大学医学部教授) 医療政策および研究全般の方向性 白神 誠 (日本大学薬学部教授) データ処理と解釈 青木武典 (日本大学商学部准教授) データ処理と解釈 劉 慕和 (日本大学商学部准教授) 管理会計的アプローチ 研究分担者 (外部) 中野種樹 (財)長岡記念財団 長岡ヘルスケアセンター理事長 経営者の視点からのアプローチ 渡辺明良 (財)聖路加国際病院 財務経理課マネージャー 病院の現場からのアプローチ Brown, Adalsteinn. D. (Professor and Chair, Public Health Policy, the Dalla Lana School of Public Health at the University of Toronto) 医療政策立案と実行の担当者としてのアプローチ Pink, George. H. (Humana Distinguished Professor, University of North Carolina at Chapel Hill, Dept of Health Policy and Management) 病院経営と医療政策からのアプローチ		
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Pink, G.H. and Zelman, W.N.	国際シンポジウム「医療BSCを再評価する－いかに利用し、成果を上げるか－」日本医療バランスト・スコアカード研究学会主催	Some Observations on the Growth and Development of the Balanced Scorecard in the United States	2009年1月10日
Brown, A.D.	国際シンポジウム「医療BSCを再評価する－いかに利用し、成果を上げるか－」日本医療バランスト・スコアカード研究学会主催	Linking strategy, performance measurement, and decision-making in health care using the BSC	2009年1月10日
高橋淑郎	日本医療バランスト・スコアカード研究学会第8回学術総会	地域社会での医療BSCの活用を目指して	2010年11月20日
渡辺明良	日本医療バランスト・スコアカード研究学会第8回学術総会	教育講演 BSC上級編	2010年11月20日
高橋淑郎	台湾健康産業BSC管理学会主催、国際シンポジウム	日本医療バランスト・スコアカード研究学会の生成と発展～BSCの評価と測定～	2010年12月4日
高橋淑郎	愛知県医師会主催：自治体病院の再生研修講演会	病院の戦略経営実践のフレームワーク：バランスト・スコアカード～BSCは自治体病院再生の道具の一つに成り得るか～	2011年1月22日

高橋淑郎	台湾健康産業BSC管理学会 主催 日台シンポジウム	トリプルボトムラインを意識した Healthcare Balanced Scorecard の作成と運用による 地域での医療 BSC の利用可能性	2011年5月29日
高橋淑郎、大道 久、 百神 誠、青木武典、 劉 慕和、中野種樹、 渡辺明良、Brown, Adalsteinn. D., Pink, George. H.	日本医療バランスト・スコ アカード研究学会 第9回 学術総会	BSC 導入意図、方法、成果およ び成果評価に関する研究	2011年10月1日
青木武典、劉 慕和、 渡辺明良、高橋淑郎	日本医療バランスト・スコ アカード研究学会 第9回 学術総会	トップマネジメントとミドルマ ネジメントの病院 BSC への取り 組みに関する多角的検討～カナ ダ・オンタリオ州と日本の比較～	2011年10月1日
高橋淑郎	日本医療バランスト・スコ アカード研究学会 第9回 学術総会	ピンチをチャンスに変える～そ して継続的な成長へ	2011年10月1日
劉 慕和	日本管理会計学会, 2011 年度年次全国大会	管理会計の視点から見た医療 機関の BSC～台湾の病院の BSC 導入事例	2011年10月9日

5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)

著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
高橋淑郎	医療バランスト・スコアカード研究/ 山形県の医療政策と連動した山形県立中 央病院の BSC	8 (2)	2011年 9月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研究学会 pp.135-152
青木武典	医療バランスト・スコアカード研究/ トップマネジメントとミドルマ ネジメントの病院 BSC への取り 組み、意識の比較～カナ ダ・オンタリオ州と日本の比較～	8 (2)	2011年 9月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研 究 学 会 pp.125-134
劉 慕和・高橋淑郎・ 青木武典	医療バランスト・スコアカード研究/ 医療機関における戦略的マ ネジメントの実行と BSC	8 (2)	2011年 9月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研 究 学 会 pp.153-162
劉 慕和	医療バランスト・スコアカード研究/ 組織変革と持続可能な医療 機関 BSC	8 (2)	2011年 9月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研 究 学 会 pp.163-171
高橋淑郎	医療バランスト・スコアカード研究/ 地域社会での医療 BSC の活 用の可能性～ The Sustainability Healthcare Balanced Scorecard の開発 に向けて	8 (1)	2011年 8月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研 究 学 会 pp.20-41
Zelman, W.N. and Pink. G.H.	医療バランスト・スコアカ ード研究/ Growth and Development of the Balanced Scorecard in the United States	6 (1)	2009年 9月	日本医療バラン スト・スコアカ ード研 究 学 会 pp.144-175

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>この研究と科学研究費補助金基盤研究 (B) (海外学術調査) を基礎として、基盤研究 (A) (海外学術調査) 「国民が納得する医療政策策定と実行のための BSC 活用方法と成果に関する国際比較研究」で平成 24 年度の科学研究費補助金を申請した。</p>			
<p>(その他)</p>			

* 課題番号	総09-004
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 8 日

日本大学 総長 殿

氏 名 邊 吾 一



所属・資格 生産工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <b>総合研究</b>	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題 ナノ粒子添加による環境低負荷型グリーンコンポジット創製法の開発と評価に関する研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 邊 吾一 ・研究分担者（役割分担） 青木 義男（理工学部・教授） 引き抜き成形法の確立 上田 政人（理工学部・専任講師） 加熱・加圧成形法の確立 高橋 進（生産工学部・教授） 射出成形法の確立 依田 満夫（工学部・教授） 高温時の力学特性の解明 今村 仙治（工学部・教授） 常温時の力学特性の解明 青木 隆平（東京大学・教授） 物理特性の解明				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	Goichi Ben et al.	7 <sup>th</sup> Asian-Australasian Confer. on Compos. Mater.	Fabrication and Characteristics of PE/Carbon Nanocomposites	平成 22 年 11 月	
	Goichi Ben	6 <sup>th</sup> Internat. Workshop on Green Composites	Development of Pultrusion Techniq. for Green Composites …… (Plenary Speech)	平成 22 年 9 月	
	Goichi Ben et al.	6 <sup>th</sup> Internat. Workshop on Green Composites	Weatherability Flexur. Proper. of Green Compos. Subject. Acceler. Exposure Test	平成 22 年 9 月	
	邊 吾一他	九州大学応用力学研平成22年度共同利用研究集会	ナノファイバーを界面に用いた植物由来UPとケナフ繊維からなるFRPの引張特性	平成 23 年 1 月	
	高橋 進, 邊 吾一他	第 61 回塑性加工連合講演会	落花生殻とPVAの複合材料の加熱圧縮成形(第2報:麻繊維布による高強度化及び他)	平成 22 年 10 月	
	高橋 進, 邊 吾一他	プラスチック成形加工学会成形加工シンポジア 10	落花生殻を活用した複合材料の平織麻繊維布による曲げ合成の向上	平成 22 年 11 月	
	上田政人他	自動車技術会関東支部学術研究講演会	ラミー繊維強化ポリ乳酸複合材の連続圧縮破壊におけるエネルギー吸収特性	平成 22 年 3 月	
	Masahito Ueda, et al.	11th Japan International SAMPE Symposium & Exhib.	Energy absorp. Capabilities of Natural Fiber Reinforced Biodegradable Plastics	平成 21 年 11 月	
	今村 仙治他	日本機械学会M&M2010材料力学カンファレンス	引張りにおける真応力に関する研究	平成 22 年 10 月	
	依田 満夫他	第 52 回日本大学工学部学術研究報告会	高分子材料の破壊とクリープ寿命評価	平成 21 年 12 月	
	青木 隆平他	九州大学応用力学研平成22年度共同利用研究集会	三軸織物複合材料の疲労特性について	平成 23 年 1 月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	Goichi Ben, Yoshio Aoki, et al.	Development of Simulation Technology for Impact Behavior of CFRP/Al Alloy Hybrid Beams in Side Collision of Automobiles	16・3	2010年7月	Advanced Composite Materials (ACM)
	邊 吾一他	CFRP アイソグリッド円筒殻の成形法の開発と圧縮特性	37・3	2011年5月	日本複合材料学会誌



青木義男, 邊 吾一他	自動車側面衝突のための CFRP 衝撃緩和ベルトの衝撃応答特性	75-738	2009 年 10 月	日本機械学会論文集A編
-------------	---------------------------------	--------	-------------	-------------

※ホームページ等での公開の  可  否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物 8 - 2]

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
1) グリーンコンポジットの成形方法			
出願番号: 特願 2010-245803			
出願日: 2010 年 11 月 2 日			
2) リベットによる板材の接合方法, 接合構造			
出願番号: 特願 2011-045718			
出願日: 2011/03/02			
(外部資金の獲得)			
平成 21 年度及び 22 年度の外部からの委託研究は 5 件で、金額は総計で 1,034 万円			
(他の研究への発展)			
本研究の成果であるナノ粒子をグリーンコンポジットに添加し、グリーンコンポジットの耐熱性を向上させた研究成果は、今後、地球温暖化防止のために普及が大きく見込まれる電気自動車の主要な構造材料に使用されるための応用研究に発展する。			
また、グリーンコンポジットの良好な圧縮におけるエネルギー吸収特性を利用して、従来金属によるクラッシュボックスと比較して同等以上の能力を発揮させることが可能なため、資源循環型で地球に優しい衝撃圧縮吸収部材の研究への発展が期待できる。			
(その他)			

課題番号	総09-010
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成21年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 5月 13日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 武内 惇



所属・資格 工学部 情報工学科 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) <input checked="" type="radio"/> 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	総合大学としてスケールメリットを活かす安心安全ユビキタスプラットフォームの研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 武内 惇</li> <li>研究分担者 (役割分担) <ul style="list-style-type: none"> <li>関根 好文 (仕様設計、評価)</li> <li>泉 隆 (仕様設計、評価)</li> <li>荒関 仁志 (システム設計、開発、評価)</li> <li>金子 正人 (システム設計、開発、評価)</li> <li>園田 孝造 (システム設計、開発、評価)</li> </ul> </li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造</td> <td>情報処理学会</td> <td>OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ー学生サービスシステムへの適用ー</td> <td>平成21年3月</td> </tr> <tr> <td>②武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造</td> <td>情報処理学会</td> <td>OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ーサービス連携をコンポーネントに分割する方式ー</td> <td>平成21年3月</td> </tr> <tr> <td>③武内惇、泉隆、荒関仁志</td> <td>情報処理学会</td> <td>オンライン出席管理システムの開発に関する検討</td> <td>平成21年3月</td> </tr> <tr> <td>④武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造</td> <td>情報処理学会</td> <td>サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ー「見える化」を組み込んだOSCARモデルに基づくESBの構成法ー</td> <td>平成22年2月</td> </tr> <tr> <td>⑤武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造</td> <td>情報処理学会</td> <td>サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ーサービス連携を「見える化」する方式ー</td> <td>平成22年2月</td> </tr> <tr> <td>⑥武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造</td> <td>情報処理学会</td> <td>サービス連携の「見える化」のためのEBS機能コンポーネントに関する一考察</td> <td>平成22年3月</td> </tr> <tr> <td>⑦武内惇、関根好文、泉隆</td> <td>日本知能情報ファジィ学会</td> <td>ICカードを用いたオンライン出席管理システム</td> <td>平成22年3月</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	①武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ー学生サービスシステムへの適用ー	平成21年3月	②武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ーサービス連携をコンポーネントに分割する方式ー	平成21年3月	③武内惇、泉隆、荒関仁志	情報処理学会	オンライン出席管理システムの開発に関する検討	平成21年3月	④武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ー「見える化」を組み込んだOSCARモデルに基づくESBの構成法ー	平成22年2月	⑤武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ーサービス連携を「見える化」する方式ー	平成22年2月	⑥武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのEBS機能コンポーネントに関する一考察	平成22年3月	⑦武内惇、関根好文、泉隆	日本知能情報ファジィ学会	ICカードを用いたオンライン出席管理システム	平成22年3月
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
①武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ー学生サービスシステムへの適用ー	平成21年3月																															
②武内惇、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	OSCARモデルに基づくESBの機能構成法に関する一考察ーサービス連携をコンポーネントに分割する方式ー	平成21年3月																															
③武内惇、泉隆、荒関仁志	情報処理学会	オンライン出席管理システムの開発に関する検討	平成21年3月																															
④武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ー「見える化」を組み込んだOSCARモデルに基づくESBの構成法ー	平成22年2月																															
⑤武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのESB機能コンポーネントの構成法に関する一考察ーサービス連携を「見える化」する方式ー	平成22年2月																															
⑥武内惇、関根好文、泉隆、金子正人、園田孝造	情報処理学会	サービス連携の「見える化」のためのEBS機能コンポーネントに関する一考察	平成22年3月																															
⑦武内惇、関根好文、泉隆	日本知能情報ファジィ学会	ICカードを用いたオンライン出席管理システム	平成22年3月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	なし																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
なし																																		

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) なし			
(外部資金の獲得) なし			
(他の研究への発展) 本研究では、事例として学生の安否情報の収集・閲覧システムを試作した。今回試作した安否情報システムで得た成果は、広域の災害時などにも対応可能で、今後安否情報システムの導入が検討される場合、本研究で得た経験を提供でき、発展性は大きい。			
(その他) なし			

課題番号	総 09-011 継続 総 08-017
------	----------------------------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 松本 絃一



所属・資格 本部・研究所教授 (医学部・教授)

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <u>総合研究</u>			注: 該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	進行性腎障害に対する PI ポリアミドによる遺伝子治療の開発																												
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 松本 絃一</li> <li>研究分担者 (役割分担) 羅 智靖 (IgG 受容体に対する PI ポリアミドの研究) 齋藤 烈 (ポリアミドの化学修飾、分子設計) 松本 宜明 (遺伝子治療薬の物性、薬物動態) 福田 昇 (PI ポリアミドの開発実験) 上野 高浩 (PI ポリアミドの開発実験) 杉山 弘 (PI ポリアミドの合成)</li> </ul>																												
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.</td> <td>14<sup>th</sup> International Congress of Endocrinology</td> <td>Transcriptional regulation for a progressive renal disease by a gene silencer pyrrole-imidazole polyamide targeting TGF-β1 promoter</td> <td>2010 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>梶原麻実子, 上野高浩, 福田昇, 羅智靖, 松本絃一</td> <td>第 53 回日本腎臓学会学術総会</td> <td>新規 Lupus 腎炎治療薬としての FcγR1g 遺伝子抑制 PI ポリアミドの開発</td> <td>2010 年 6 月</td> </tr> <tr> <td>Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.</td> <td>14<sup>th</sup> International SHR Symposium</td> <td>TRANSCRIPTIONAL REGULATION OF PROGRESSIVE RENAL DISEASE BY THE GENE SILENCING PI POLYAMIDE TARGETED TO TGF-β1 PROMOTER</td> <td>2010 年 9 月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.	14 <sup>th</sup> International Congress of Endocrinology	Transcriptional regulation for a progressive renal disease by a gene silencer pyrrole-imidazole polyamide targeting TGF-β1 promoter	2010 年 3 月	梶原麻実子, 上野高浩, 福田昇, 羅智靖, 松本絃一	第 53 回日本腎臓学会学術総会	新規 Lupus 腎炎治療薬としての FcγR1g 遺伝子抑制 PI ポリアミドの開発	2010 年 6 月	Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.	14 <sup>th</sup> International SHR Symposium	TRANSCRIPTIONAL REGULATION OF PROGRESSIVE RENAL DISEASE BY THE GENE SILENCING PI POLYAMIDE TARGETED TO TGF-β1 PROMOTER	2010 年 9 月									
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.	14 <sup>th</sup> International Congress of Endocrinology	Transcriptional regulation for a progressive renal disease by a gene silencer pyrrole-imidazole polyamide targeting TGF-β1 promoter	2010 年 3 月																										
梶原麻実子, 上野高浩, 福田昇, 羅智靖, 松本絃一	第 53 回日本腎臓学会学術総会	新規 Lupus 腎炎治療薬としての FcγR1g 遺伝子抑制 PI ポリアミドの開発	2010 年 6 月																										
Noboru Fukuda, Takahiro Ueno, Koichi Matsumoto, et al.	14 <sup>th</sup> International SHR Symposium	TRANSCRIPTIONAL REGULATION OF PROGRESSIVE RENAL DISEASE BY THE GENE SILENCING PI POLYAMIDE TARGETED TO TGF-β1 PROMOTER	2010 年 9 月																										
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松本絃一, 福田昇, 上野高浩, 羅智靖, 齋藤烈, 松本宜明, 杉山弘, 他 5 名</td> <td>日大医学雑誌/腎疾患の進展阻止を目指した新しい治療戦略の開発</td> <td>68・6</td> <td>2009 年 12 月</td> <td>日本大学医学会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	松本絃一, 福田昇, 上野高浩, 羅智靖, 齋藤烈, 松本宜明, 杉山弘, 他 5 名	日大医学雑誌/腎疾患の進展阻止を目指した新しい治療戦略の開発	68・6	2009 年 12 月	日本大学医学会															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
松本絃一, 福田昇, 上野高浩, 羅智靖, 齋藤烈, 松本宜明, 杉山弘, 他 5 名	日大医学雑誌/腎疾患の進展阻止を目指した新しい治療戦略の開発	68・6	2009 年 12 月	日本大学医学会																									

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	総 09-012 継続 総 08-020
------	----------------------------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 23 日

日本大学 総長 殿

氏 名 松本 太郎

所属・資格 医学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <b>総合研究</b>			注：該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	脱分化脂肪細胞 (DFAT) を用いた細胞治療法の確立に向けた研究				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 松本 太郎</li> <li>研究分担者 (役割分担) 平山 篤志 (心筋再生の研究) 龍 順之助 (骨組織再生の研究) 高橋 悟 (平滑筋再生の研究) 加野 浩一郎 (in vivo における細胞動態の研究) 福田 昇 (血管再生の研究) 野呂 知加子 (遺伝子・タンパク発現解析) 入部 雄司 (DFAT の特性解析)</li> </ul>				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	松本太郎, 福田昇, 加野浩一郎, 平山篤志, 龍順之助, 高橋悟, 野呂知加子, 入部雄司, 松本絃一	日本医工学治療学会第 25 回学術大会	脱分化脂肪細胞(DFAT)による 心血管病の再生医療	2009 年 4 月	
	Taro Matsumoto, K Kano, N Fukuda, A Hirayama, S Takahashi, Y Iribe, C Noro, et al.	The 9th World Congress on Inflammation	DEDIFFERENTIATED FAT CELLS AS A NEW CELL SOURCE FOR REGENERATIVE MEDICINE	2009 年 7 月	
	Taro Matsumoto, Koichi Kano, Noboru Fukuda, Yuji Iribe, Atsushi Hirayama, Satoru Takahashi, Chikako Noro, et al.	The 7th Annual Meeting of the International Federation for Adipose Therapeutics and Science	Dedifferentiated fat cells as a new cell source for regenerative medicine	2009 年 10 月	
	松本 太郎, 福田 昇, 加野 浩一郎, 平山 篤志, 龍 順之助, 高橋 悟, 野呂 知加子, 入部 雄司, 松本 絃一, 他 6 名	第 6 回日本大学先端バイオフィオーラム	脱分化脂肪細胞を用いた再生医療実現に向けた取り組み	2010 年 2 月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
松本 太郎	日経産業新聞	2011年1月6日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
平成 23-25 年度 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(B) 「高齢者難治性疾患に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の確立」			
(他の研究への発展)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臍帯血移植時の生着促進を目的とする DFAT 細胞治療の開発</li> <li>● 慢性炎症性腸疾患に対する DFAT 細胞治療の開発</li> <li>● DFAT を導入した機能的人工皮膚の開発</li> <li>● 椎間板変性症に対する DFAT 細胞治療の開発</li> </ul>			
(その他)			

課題番号	総 09-021
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 杉谷 博士

所属・資格 松戸歯学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <input checked="" type="radio"/> 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。																
2 研究課題	唾液腺機能再生に向けての分子的アプローチ																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 杉谷 博士 松戸歯学部・教授</li> <li>研究分担者 (役割分担) <ul style="list-style-type: none"> <li>吉垣 純子 松戸歯学部・准教授 (初代培養系を用いた発現タンパク質の検索)</li> <li>勝俣 治 松戸歯学部・専任講師 (臓器レベルにおける分泌機能の検討)</li> <li>成田 貴則 松戸歯学部・助教 (唾液腺における発現遺伝子の検索)</li> <li>中尾 寿美 松戸歯学部・助手 (分泌顆粒形成機構の検索)</li> <li>茂呂 周 大学院総合科学研究科・教授 (分泌型抗体産生の分子機構の検索)</li> <li>浅野 正岳 歯学部・専任講師 (分泌型抗体産生の分泌機構の検索)</li> <li>伊藤 芳久 薬学部・教授 (ノックアウトマウスにおける唾液分泌能の検討)</li> <li>小菅 康弘 薬学部・助教 (初代培養系を用いた水チャネル発現の検索)</li> </ul> </li> </ul>																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福島美和子、吉垣純子、勝俣(加藤)治、祁兵、郭明宇、成田貴則、中尾寿美、茂呂周、浅野正岳、伊藤芳久、小菅康弘、杉谷博士</td> <td>第10回日本大学口腔科学会</td> <td>アクアポリン5と6による分泌顆粒の浸透圧調節機構</td> <td>平成22年9月5日</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	福島美和子、吉垣純子、勝俣(加藤)治、祁兵、郭明宇、成田貴則、中尾寿美、茂呂周、浅野正岳、伊藤芳久、小菅康弘、杉谷博士	第10回日本大学口腔科学会	アクアポリン5と6による分泌顆粒の浸透圧調節機構	平成22年9月5日								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月															
福島美和子、吉垣純子、勝俣(加藤)治、祁兵、郭明宇、成田貴則、中尾寿美、茂呂周、浅野正岳、伊藤芳久、小菅康弘、杉谷博士	第10回日本大学口腔科学会	アクアポリン5と6による分泌顆粒の浸透圧調節機構	平成22年9月5日															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Guo M-Y, Satoh K, Qi B, Narita T, Katsumata-Kato O, Matsuki-Fukushima M, Fujita-Yoshigaki J, Sugiya H.</td> <td>Biomed Res / Thiol-oxidation reduces the release of amylase induced by <math>\beta</math>-adrenergic receptor activation in rat parotid acinar cells.</td> <td>31・5</td> <td>2010, 11</td> <td>Biomedical Research Press</td> </tr> <tr> <td>Mitsui R, Fujita-Yoshigaki J, Narita T, Matsuki-Fukushima M, Satoh K, Qi B, Guo MY, Katsumata-Kato O, Sugiya H.</td> <td>Arch Oral Biol / Maintenance of paracellular barrier function by insulin-like growth factor-I in submandibular gland cells. 963-969,</td> <td>55・12</td> <td>2010, 12</td> <td>Elsevier</td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Guo M-Y, Satoh K, Qi B, Narita T, Katsumata-Kato O, Matsuki-Fukushima M, Fujita-Yoshigaki J, Sugiya H.	Biomed Res / Thiol-oxidation reduces the release of amylase induced by $\beta$ -adrenergic receptor activation in rat parotid acinar cells.	31・5	2010, 11	Biomedical Research Press	Mitsui R, Fujita-Yoshigaki J, Narita T, Matsuki-Fukushima M, Satoh K, Qi B, Guo MY, Katsumata-Kato O, Sugiya H.	Arch Oral Biol / Maintenance of paracellular barrier function by insulin-like growth factor-I in submandibular gland cells. 963-969,	55・12	2010, 12	Elsevier
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所														
Guo M-Y, Satoh K, Qi B, Narita T, Katsumata-Kato O, Matsuki-Fukushima M, Fujita-Yoshigaki J, Sugiya H.	Biomed Res / Thiol-oxidation reduces the release of amylase induced by $\beta$ -adrenergic receptor activation in rat parotid acinar cells.	31・5	2010, 11	Biomedical Research Press														
Mitsui R, Fujita-Yoshigaki J, Narita T, Matsuki-Fukushima M, Satoh K, Qi B, Guo MY, Katsumata-Kato O, Sugiya H.	Arch Oral Biol / Maintenance of paracellular barrier function by insulin-like growth factor-I in submandibular gland cells. 963-969,	55・12	2010, 12	Elsevier														

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
発明の名称 「活性酸素の作用を低下する物質のスクリーニング方法」			
NUBIC No. 11332			
出願番号 特願 2009-156642			
出願日 2009年7月1日			
公開番号: 特開 2011-010585			
公開日: 2011年1月20日			
(外部資金の獲得)			
平成 21 年度および 22 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 獲得 (3,120,000 円)			
(他の研究への発展)			
平成 22 年度および 23 年度自然科学研究機構生理学研究所一般共同研究採択 「唾液腺分泌終末における細胞間結合の調節機構:細胞内信号系と神経系による調節」			
(その他)			

課題番号	総 09-022
	継続 総 08-028

注：課題番号を記入してください。

## 平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 西山 典宏



所属・資格 松戸歯学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <input checked="" type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	ワンステップボンディング材による歯質接着システムの構築																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 西山 典宏</li> <li>研究分担者 (役割分担) 前田 隆秀 (松戸歯学部) 曾田 雅啓 (松戸歯学部) 中島(藤田) 光 (松戸歯学部) 平田 光男 (生産工学部)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西山典宏, 谷本安浩, 前田隆秀, 曾田雅啓, 中島(藤田)光, 池見宅司, 平田光男</td> <td>日大口腔科学会</td> <td>ワンステップボンディング材による歯質接着システムの構築</td> <td>2010年9月5日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	西山典宏, 谷本安浩, 前田隆秀, 曾田雅啓, 中島(藤田)光, 池見宅司, 平田光男	日大口腔科学会	ワンステップボンディング材による歯質接着システムの構築	2010年9月5日																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
西山典宏, 谷本安浩, 前田隆秀, 曾田雅啓, 中島(藤田)光, 池見宅司, 平田光男	日大口腔科学会	ワンステップボンディング材による歯質接着システムの構築	2010年9月5日																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Kou Fujita, Shen Ma, Masahiro Aida, Takahide Maeda, Takuji Ikemi, Mitsuo Hirata, Norihiro Nishiyama</td> <td>Journal of Dental Research, Effect of reacted acidic monomers with calcium on bonding performance</td> <td>90巻5号</td> <td>2011年5月</td> <td>SAGE</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Kou Fujita, Shen Ma, Masahiro Aida, Takahide Maeda, Takuji Ikemi, Mitsuo Hirata, Norihiro Nishiyama	Journal of Dental Research, Effect of reacted acidic monomers with calcium on bonding performance	90巻5号	2011年5月	SAGE																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Kou Fujita, Shen Ma, Masahiro Aida, Takahide Maeda, Takuji Ikemi, Mitsuo Hirata, Norihiro Nishiyama	Journal of Dental Research, Effect of reacted acidic monomers with calcium on bonding performance	90巻5号	2011年5月	SAGE																														

※ホームページ等での公開の  可 /  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



課題番号	総 09-024
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 寒河江登志朗



所属・資格 松戸歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <b>総合研究</b>	注:該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	日本大学の新しい放射光 LEBRA-PXR の高度利用に関する基盤研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者 寒河江登志朗・松戸歯学部・准教授 (企画、総括、X線実験)</li> <li>研究分担者 (役割分担) 佐藤 勇・総合科学研究科・教授 (加速器の応用開発)、新富孝和・総合科学研究科・教授 (加速器の性能改良)、田中俊成・量子科学研究所・教授 (加速器の安定化)、早川 建・量子科学研究所・教授 (加速器の恒常運転)、早川恭史・量子科学研究所・准教授 (PXR 開発研究)、山本 寛・理工学部・教授 (電子材料研究)、鈴木 薫・理工学部・教授 (プラズマ現象研究)、岩田展幸・理工学部・専任講師 (電子材料開発)、山本浩嗣・松戸歯学部・教授 (病理組織研究)、金田 隆・松戸歯学部・教授 (放射線機器開発)、早川 徹・(現)鶴見大学・歯学部・教授 (歯科材料開発)、鈴木久仁博・松戸歯学部・教授 (細胞組織研究)、岡田裕之・松戸歯学部・専任講師 (病理的石灰化物研究)、山本 仁・松戸歯学部・専任講師 (細胞培養実験)、谷本安浩・松戸歯学部・准教授 (歯科材料研究)、中田浩史・松戸歯学部・専任講師 (歯科インプラント材料開発)、森 啓・薬学部・助教 (加速器を利用した測定法)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇</td> <td>生体医工学シンポジウム 2010</td> <td>パラメトリック X 線を用いた位相コントラスト法による生体イメージング</td> <td>2010・9・10</td> </tr> <tr> <td>高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇</td> <td>第 71 回応用物理学会 2010</td> <td>パラメトリック X 線の生物イメージングへの応用 - 医用画像診断のブレークスルーを目指して -</td> <td>2010・9・15</td> </tr> <tr> <td>高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・寒河江登志朗・田中俊成・早川 建・佐藤 勇</td> <td>第 46 回 X 線分析討論会 2010</td> <td>パラメトリック X 線を用いたラウエ配置回折強調イメージング</td> <td>2010・10・23</td> </tr> <tr> <td>高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・境武志・寒河江登志朗・中尾圭佐・野上杏子・稲垣学・田中俊成・早川 建・佐藤 勇</td> <td>第 23 回日本放射光学会年会 放射光科学合同シンポジウム</td> <td>パラメトリック X 線を用いた生物標本のイメージング</td> <td>2010・4・6</td> </tr> <tr> <td>寒河江登志朗, 鈴木久仁博, 山本仁</td> <td>第 52 回歯科基礎医学会</td> <td>ヒト・エナメル質結晶の X 線回折法による 3 次元配向解析</td> <td>2010・9・22</td> </tr> <tr> <td>T Sakae, Y hayakawa, Y Takahashi, Y Numata, T Hayakawa, H Okada, H Nakada, T Tanaka, K Hayakawa, I Sato</td> <td>American Association for Dental Research</td> <td>Design for caries diagnostics by a new brilliant x-ray source</td> <td>2010・3・6</td> </tr> <tr> <td>T Sakae, H Okada, H Nakada, K Suzuki, H Yamamoto</td> <td>Japanese Association for Dental Research</td> <td>X-ray phase contrast imaging of dental tissues</td> <td>2010・11・20</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇	生体医工学シンポジウム 2010	パラメトリック X 線を用いた位相コントラスト法による生体イメージング	2010・9・10	高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇	第 71 回応用物理学会 2010	パラメトリック X 線の生物イメージングへの応用 - 医用画像診断のブレークスルーを目指して -	2010・9・15	高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・寒河江登志朗・田中俊成・早川 建・佐藤 勇	第 46 回 X 線分析討論会 2010	パラメトリック X 線を用いたラウエ配置回折強調イメージング	2010・10・23	高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・境武志・寒河江登志朗・中尾圭佐・野上杏子・稲垣学・田中俊成・早川 建・佐藤 勇	第 23 回日本放射光学会年会 放射光科学合同シンポジウム	パラメトリック X 線を用いた生物標本のイメージング	2010・4・6	寒河江登志朗, 鈴木久仁博, 山本仁	第 52 回歯科基礎医学会	ヒト・エナメル質結晶の X 線回折法による 3 次元配向解析	2010・9・22	T Sakae, Y hayakawa, Y Takahashi, Y Numata, T Hayakawa, H Okada, H Nakada, T Tanaka, K Hayakawa, I Sato	American Association for Dental Research	Design for caries diagnostics by a new brilliant x-ray source	2010・3・6	T Sakae, H Okada, H Nakada, K Suzuki, H Yamamoto	Japanese Association for Dental Research	X-ray phase contrast imaging of dental tissues	2010・11・20
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇	生体医工学シンポジウム 2010	パラメトリック X 線を用いた位相コントラスト法による生体イメージング	2010・9・10																															
高橋由美子, 早川 恭史, 桑田隆生, 寒河江登志朗, 田中 俊成, 早川 建, 佐藤 勇	第 71 回応用物理学会 2010	パラメトリック X 線の生物イメージングへの応用 - 医用画像診断のブレークスルーを目指して -	2010・9・15																															
高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・寒河江登志朗・田中俊成・早川 建・佐藤 勇	第 46 回 X 線分析討論会 2010	パラメトリック X 線を用いたラウエ配置回折強調イメージング	2010・10・23																															
高橋由美子・早川恭史・桑田隆生・境武志・寒河江登志朗・中尾圭佐・野上杏子・稲垣学・田中俊成・早川 建・佐藤 勇	第 23 回日本放射光学会年会 放射光科学合同シンポジウム	パラメトリック X 線を用いた生物標本のイメージング	2010・4・6																															
寒河江登志朗, 鈴木久仁博, 山本仁	第 52 回歯科基礎医学会	ヒト・エナメル質結晶の X 線回折法による 3 次元配向解析	2010・9・22																															
T Sakae, Y hayakawa, Y Takahashi, Y Numata, T Hayakawa, H Okada, H Nakada, T Tanaka, K Hayakawa, I Sato	American Association for Dental Research	Design for caries diagnostics by a new brilliant x-ray source	2010・3・6																															
T Sakae, H Okada, H Nakada, K Suzuki, H Yamamoto	Japanese Association for Dental Research	X-ray phase contrast imaging of dental tissues	2010・11・20																															

5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
T Sakae, K Hirayama, H Yamamoto, K Suzuki, Y Hayakawa, Y Takahashi, T Kuwada, K Nakao, K Nogami, M Inagaki, T Tanaka, K Hayakawa, I Sato, M Kakei	J Hard Tissue Biol・Three dimensional orientation analysis of human enamel crystallites using x-ray diffraction	20(1)	2011, 4	The Society for Hard Tissue Regenerative Biology
T Sakae, Y Hayakawa, Y Takahashi, T Tanaka, K Hayakawa, T Kuwada, K Nakao, K Nogami, M Inagaki, H Yamamoto, N Iwata, K Suzuki, A Mori, Y Tanimoto, T Hayakawa, H Nakada, T Suwa, Y Numata, M Suemitsu, Y Sato, H Okada, H Yamamoto, K Sekiya, T Kaneda, H Nishimura, E Kitamura, S Hata, Y Akimoto, K Suzuki, H Yamamoto, T Shintomi, I Sato	Int J Oral-Med Sci・X-ray Phase-Contrast Imaging and X-ray Absorption Fine Structure Analysis using Parametric X-ray Radiation Generated at LEBRA, Nihon University	9 (2)	2010, 12	日本大学口腔科学研究所

※ホームページ等での公開の  否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物 8-2]


6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
生体医工学シンポジウム 2010 ベストリサーチアワード (2010年9月10日) 高橋由美子、早川恭史、桑田隆生、寒河江登志朗、田中俊成、早川建、佐藤勇 パラメトリック X線を用いた位相コントラスト法による生体イメージング			

注：課題番号を記入してください。

### 平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 3 月 19 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 奥 忠武   
 所属・資格 \_\_\_\_\_ 生物資源科学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <u>総合研究</u>		注：該当する種目を○で囲んでください。																
2 研究課題	植物資源増産モデルとしての新規二重遺伝子導入による高品質・高生長ケナフの開発																		
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 教授 奥 忠武：立案と統括、バクテリオセルロース合成酵素と藻類シトクロム $C_6$ 同時発現形質転換ケナフの作出 ・研究分担者 (役割分担) 教授 櫻井 英敏：糖類の定量と構造の検討 准教授 西尾 俊幸：ケナフへの遺伝子導入法の検討と確立 准教授 四宮 一総：代謝産物の定量と消長 専任講師 袴田 航：各種バクテリオセルロース合成酵素遺伝子の探索、単離およびケナフの育成と生長の測定																		
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山本慎一郎、比留間航、小嶋翔平、関根晃陽、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武</td> <td>2010 年度日本農芸化学会大会</td> <td>ラン藻 <i>Phormidium laminosum</i> 由来亜硝酸還元酵素の大腸菌での発現</td> <td>2010 年 3 月 28 日</td> </tr> <tr> <td>関根晃陽、石原良浩、竹下郁哉、小嶋翔平、比留間航、山本慎一郎、赤崎秀治、平野貴子、林文慶、柵頼信夫、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武</td> <td>2010 年度日本農芸化学会大会</td> <td>ケイ藻 <i>Thalassiosira oceanica</i> 由来 Plastocyanin のクローニングおよび大腸菌での発現ベクターの構築</td> <td>2010 年 3 月 29 日</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	山本慎一郎、比留間航、小嶋翔平、関根晃陽、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武	2010 年度日本農芸化学会大会	ラン藻 <i>Phormidium laminosum</i> 由来亜硝酸還元酵素の大腸菌での発現	2010 年 3 月 28 日	関根晃陽、石原良浩、竹下郁哉、小嶋翔平、比留間航、山本慎一郎、赤崎秀治、平野貴子、林文慶、柵頼信夫、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武	2010 年度日本農芸化学会大会	ケイ藻 <i>Thalassiosira oceanica</i> 由来 Plastocyanin のクローニングおよび大腸菌での発現ベクターの構築	2010 年 3 月 29 日			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																
山本慎一郎、比留間航、小嶋翔平、関根晃陽、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武	2010 年度日本農芸化学会大会	ラン藻 <i>Phormidium laminosum</i> 由来亜硝酸還元酵素の大腸菌での発現	2010 年 3 月 28 日																
関根晃陽、石原良浩、竹下郁哉、小嶋翔平、比留間航、山本慎一郎、赤崎秀治、平野貴子、林文慶、柵頼信夫、袴田航、西尾俊幸、奥 忠武	2010 年度日本農芸化学会大会	ケイ藻 <i>Thalassiosira oceanica</i> 由来 Plastocyanin のクローニングおよび大腸菌での発現ベクターの構築	2010 年 3 月 29 日																
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名 / 論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H. Akazaki, F. Kawai, H. Chida, T. Hirano, W. Hakamata, S.-Y. Park, T. Nishio, and T. Oku</td> <td><i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i>, /Expression, Purification, Physicochemical Characterization and Structural Analysis of Cytochrome <math>c_{554}</math> from <i>Vibrio parahaemolyticus</i></td> <td>74・5 p.1113-1115</td> <td>2010 /5</td> <td>Japanese Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry</td> </tr> <tr> <td>T. Oku, H. Chida, H. Akazaki, S. Yamamoto, K. Shinomiya, and H. Sakurai</td> <td>"<i>Porphyra yezoensis</i>; Frontiers in Physiological and Molecular Biological Research" Chapter 9: Biotechnological Application of <i>Porphyra yezoensis</i> Genes</td> <td>Book ISBN: 9781611223040</td> <td>In press</td> <td>NY USA Nova Science Publishers Inc.,</td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名 / 論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	H. Akazaki, F. Kawai, H. Chida, T. Hirano, W. Hakamata, S.-Y. Park, T. Nishio, and T. Oku	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , /Expression, Purification, Physicochemical Characterization and Structural Analysis of Cytochrome $c_{554}$ from <i>Vibrio parahaemolyticus</i>	74・5 p.1113-1115	2010 /5	Japanese Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry	T. Oku, H. Chida, H. Akazaki, S. Yamamoto, K. Shinomiya, and H. Sakurai	" <i>Porphyra yezoensis</i> ; Frontiers in Physiological and Molecular Biological Research" Chapter 9: Biotechnological Application of <i>Porphyra yezoensis</i> Genes	Book ISBN: 9781611223040	In press	NY USA Nova Science Publishers Inc.,
著者・執筆者	著書名・雑誌名 / 論文名	巻・号	年月	出版社・発行所															
H. Akazaki, F. Kawai, H. Chida, T. Hirano, W. Hakamata, S.-Y. Park, T. Nishio, and T. Oku	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , /Expression, Purification, Physicochemical Characterization and Structural Analysis of Cytochrome $c_{554}$ from <i>Vibrio parahaemolyticus</i>	74・5 p.1113-1115	2010 /5	Japanese Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry															
T. Oku, H. Chida, H. Akazaki, S. Yamamoto, K. Shinomiya, and H. Sakurai	" <i>Porphyra yezoensis</i> ; Frontiers in Physiological and Molecular Biological Research" Chapter 9: Biotechnological Application of <i>Porphyra yezoensis</i> Genes	Book ISBN: 9781611223040	In press	NY USA Nova Science Publishers Inc.,															

※ホームページ等での公開の  (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	総 09-028 継続 総 08-035
------	----------------------------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 21 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 4 月 22 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 北中 進

所属・資格 薬学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1	種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">総合研究</span>	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 抗酸化活性天然薬物による保存的再生医療の確立		
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 北中 進 ・研究分担者（役割分担） 松本 紘一 （腎臓を用いた実験指導） 福田 昇 （LRC、心筋幹細胞アッセイ） 矢久保 修嗣 （漢方薬処方 of 幹細胞保護評価） 飯島 洋 （EPC アッセイと構造活性相関解析）		
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	菅野愛、曲山佳代子、芳川和輝、飯島洋、高松智、高宮知子、矢久保修、福田昇、松本紘一、北中進	日本大学幹細胞研究フォーラム	柴胡加竜骨牡蛎湯による血管内皮前駆細胞(EPC)の保護効果
	飯島 洋、大根谷章浩、菅野愛、曲山佳代子、芳川和輝、高松 智、高宮智子、矢久保修嗣、福田 昇、北中 進	日本薬学会第131年会	柴胡加竜骨牡蠣湯の血管内皮前駆細胞保護作用
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
			年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) なし			
(外部資金の獲得) なし			
(他の研究への発展) 漢方処方に血管内皮前駆細胞 (EPC) の自己修復細胞の機能を高めることが認められたことから、天然薬物に抗老化活性が期待される。そこで本研究で行っている EPC の機能回復評価と共にセンチュウを用いた抗老化試験を導入し、抗老化活性を有する生薬と含有成分の研究へと研究が広がっている。			
(その他)			